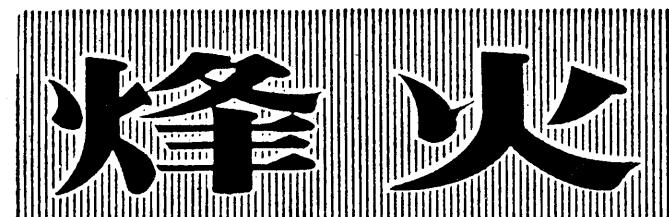


☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争
一世界プロ独を組織する世界単一党を
国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1982年
11月15日
第346号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫
■ 東京戦旗社 東京中央郵便局 私書箱1114号

全民労協結成許すな

行革——人労凍結攻撃を階級的

労働運動の前進で粉碎せよ！

全国のたたかう労働者人民諸君！

九・一〇月闘争は、一〇・一三里塚闘争、一〇・二四大阪反核集会を頂点にしてたたかいぬかれた。一〇・一一には一三〇〇〇人、一〇・一二には左派勢力を先頭に四五万人の人民がそれぞれ結集し、秋期闘争の一定の高揚を現出させた。だが敵階級の攻勢はこれを上回って急ピッチである。安保・軍拡・改憲・行革、さらに労戦右再編を基軸とした日本ブルジョアジーの政治攻勢は、余裕のない暴力的性格をつよめてきていた。

日本帝国主義は侵略反革命戦争とファシズムにむかって、八三一八五年過程をひとつ歴史的区切りとした政治経済社会の全分野にわたる帝国主義的再編に本格的にのりだした。



大阪反核集会で訴える三里塚反対同盟

(10月24日 大阪城公園・反侵略の広場)

冬期カンパの要請

共産主義者同盟（全国委員会）

八〇年代——この激動の時代の中で、資本主義の危機は深まり、日帝は戦争とファシズム準備にひた走っている。わが同盟はこれに対し、真正面からのたたかいを組織し、階級的労働運動の創出、広範な人民の政治的統一戦線の建設をおし進めるべく中央集権非合法党の建設をさらに強化していく。現下の政治的流動を、武装蜂起—プロレタリア独裁の大道へと固く統合しよう。わが同盟のこのたかの前進のため、冬期カンパを訴える。

の党派闘争は死活をかけたものとなるであろう。

十一月から八二年末にかけた一時期を、われわれは帝国主義的労戦統一＝全民労協発足阻止、行革・人効凍結攻撃粉碎のたたかいを実践的焦点としつつ、プロレタリアートの政治戦列をうちかためるべく、全力をあげてたたかいぬこう。世界プロレタリア革命の一環として前進しつづける全世界の被抑圧人民のたたかいと連帯し、自國帝国主義打倒をめざす階級闘争の奔流を創出しよう。

世界同時不況と

☆——労働者階級

七九年の第二次石油危機をへて、八〇年代にはいって世界資本主義はその危機を一挙的に深めた。

本年九月六日から開催されたIMF（国際通貨基金）年次総会は次のような基調演説ではじまつた。「先進国の経済成長は一九八〇年から八一年にかけて約1%にとどまり、八二年はゼロ成長が予想される。この結果、失業が急増している……。インフレ抑制の面である程度の成果はみられるが、依然としてインフレ率は受け入れがたいほど高い」。またこれに先立つ九月二日、GATT（関税・貿易一般協定）は「国際貿易一九八一～八二」と題する報告を発表し、「生産、貿易、投資、失業、インフレなど多くの分野で世界経済は一九三〇年代の世界大恐慌以来、最悪の状況になっている」とのべた。まさに世界資本主義は「危機から破局にむかってすすんでいる」（六月ベルサイユ・サミットでのカナダ首相発言）という様相を深めているのである。

国際金融危機をもともなって拡大する資本主義の世界的同時的危機は、全世界の労働者の生活を直撃している。

帝国主義諸国でも、生活物資の高騰、賃金抑制、「福祉」切り捨てにくわえ、一大失業時代到来の波が労働者人民をおそいはじめている。アメリカでは本年、失業者総数は一〇〇〇万を突破し、失業率はついに一〇%をこえた。戦後最高の記録である。一〇代の黒人青年の失業率は約五〇%にもものぼっている。EC諸国では失業率はイギリスの一三・四%（七月）を筆頭に、イタリア、ベルギー、オランダでも一〇%をこえ（六月）、EC九ヶ国（西ドイツでシムミット政権が経済不振を理由に崩壊、一〇月二六日、スペインでは社会労働党が四年間で八〇万人の雇用創出などの公



エクアドルでの街頭闘争(10月21日)

約をかかげて総選挙で大勝、十一月二日、アメリカ中間選挙で野民主党がレー・ガーン経済政策批判を争点にして議席を伸長、さらに日本では一〇月一二日の鈴木退陣表明にはじまる自民党総裁選をめぐっての党内抗争——これらは帝国主義諸国での本格的な政治危機の徵候としてある。

他方、反核運動を軸に高揚をしめしてきた帝国主義諸国での人民のたたかいは、このかんとりわけ労働者の経済闘争の激化が顕著である。九月二二日、イギリスでは医療労働者の賃上げ支援のゼネストがおこなわれた。一〇月二三日には西ドイツで反失業をかかげた二〇万人デモが、さらに同二七日のフランスではミッテラン政権の賃上げ抑制に抗議する国営交通機関労働者による二十四時間交通ゼストが、それぞれ決行された。

帝国主義が被抑圧民族からの収奪のうえに成立している以上、これらに属する第三世界の国々や一部「労働者国家」の矛盾と危機はいつそうすさまじく先鋭化している。第一次産品の輸出に経済を依存する国々では、その大幅な価格減、輸出低迷によって国内経済は大打撃をうけ、非産油国や強硬な工業化政策をとつてきた国々でも、見せかけの経済成長にかけりがではじめ、メキシコの対外債務返済繰り延べ（八月）とその国際的波及にみられるように、債務累積が増大し、帝国主義への従属性はますますつよまっている。

これを背景にして、中米・アジア諸国、あるいはボーランドなどで労働者人民の反政府闘争の高まりがいちじるしい。エルサルバドル、グアテマラなど中米での民族解放闘争の前進とならんで、一〇月二一日、エクアドルでは戒厳令下で生活物資値上げに抗議するゼネスト、市街戦がたたかいぬかれた。アジア

会が連続的にうちぬかれている。またボーランドではヤルゼルスキ軍政による「連帶」合法化の攻撃にたいして、一〇月一一日のグダニスク・レーニン造船所の労働者の座りこみストを皮切りにして、本土で街頭闘争をふくむ広範なたたかいがくりひろげられている。世界資本主義の歴史的危機は、こうして全世界の労働者大衆を新たな闘争にたちあがらせつづけている。それは同時に帝国主義国、第三世界、「労働者国家」をつらぬく労働者の国際的結合、世界プロレタリア革命による統合の歴史的条件の成熟をもしめすものである。

☆——官公労解体狙う

☆——人効凍結攻撃

他帝國主義にくらべ、比較的安定した位置を保ってきたといわれる日本帝國主義もまたいやとうなく歴史的すう勢にのみ込まれつた。六〇年代には約一〇%、七〇年代には五%であった経済成長率は八〇年三・七%、八一年二・八%に減少した。失業率も本年六月には政府発表二・四八%，総数一三〇万人という一九五六年以来二六年ぶりの最高値を記録している。

危機到来に身構える日本帝國主義は独自の帝國主義的権益圈の確立、戦争準備、国内統治形態の転換を基本路線としつつ、日本労働運動に対する戦後史を画する攻勢にうつてできている。その現在的要に位置するものこそ臨調・行革攻撃であり、これと連動した労戦再編の攻撃である。

本年七月末、第二臨調が第三次基本答申を発表して以降、行革攻撃はいっそう具体的なものとなり、反労働的性格をむきだしにしてきた。「自立・自助を基本とする新たな社会の形成」「活力ある福祉社会の建設」「国際社会への積極的貢献」なるものを「行政改革の理念」とする第三次答申が、結局、目玉商品としておしだしたものは「福祉見直し」、農業切り捨てとならんで、「国鉄再建」と官公労働者の賃金抑制であった。事実、以降事態はそのようすすんだ。

まず九月一六日、鈴木によつて財政非常事態宣言がだされ、「八四年度赤字国債発行ゼロ」「増税なき財政再建」の破たんを居直つたうえで、八月六日に提出された人事院勧告（四・五八%平均一〇七一五円）の凍結の必要性をうちだした。そして同二〇日、「痛みをわかつ」のペテン的名目をもつて一九四九年以來三三年ぶりの人効凍結を発表し、ついで二四日、人効見送りと国鉄再建を柱とした行革大綱の閣議決定へといたのである。さらに同日、自治省は、地方公務員の賃金について國家公務員に準じた措置をすべきであること、これがおこなわれないときには地方自



公務員共闘の人勧凍結抗議行動

この核心点においてあらゆる反対派勢力は、歴史のふるいにかけられているといえる。

このかん総評批判をつよめてきている日共・統一労組懇はこの点についてどうか。たしかに彼らは新たなナショナルセンターの結成を呼びかけてはいる。しかし彼らの総評批判は、同盟への屈服という結果論に終始するものであり、また総評にかわる組織の結集基軸も、変革ではなく現状防衛を中心としたものである。「大企業の大もうけを社会に還元せよ」のスローガンにしめられるように、彼らの労働運動は資本主義の存在を前提とし、平等な分配を要求する小ブルジョア的なものであり、労働者大衆を革命的階級へと形成していく事業とは無縁なものである。

昨年にもまして活発な動きを展開する総評三顧問の潮流はどうか。三顧問は本年六月新四項目を提唱し、全民労協不参加を訴えることで一定の層をひきつけている。ただし彼ら



抗議の県民集会(9・14)

沖縄 教科書改悪に怒り 住民虐殺を抹消

教科書検定による歴史的事実の記述の削除が人民の激しい怒りを歪曲と抹消は、中国・韓国をはじめアジア諸国から厳しい糾弾を受けたが、沖縄においても住民虐殺

人が殺され、この中には日本軍

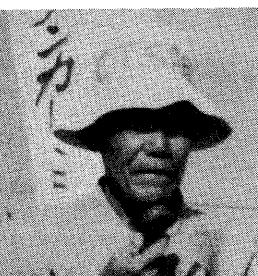
によって殺された約八百名の人がいるのだ。この事実の教科書記述が検定によって「数字根拠が不確

実」との理由で書き直しを命じられ、三度におよぶ表現修正もその都度クレームがつけられた。

そのたびにさまざまな「理由」

がつけられ、結局最終的には住民虐殺の記述は一切削除されたが、その本当の理由が「旧日本軍全体のイメージが全て残虐ととられて困る」(八二文部省見解)ことにあるのは明らかである。そして教科書問題が大きな国際問題となる中で「中国・韓国の要求は外

安里清信氏の死を悼む



十月二二日、金武湾を守る会代表世

話人であった安里清信氏が、たたかい

なかばにして逝去された。沖縄を愛し

戦争を心から憎んだ氏は、CTS粉碎

闘争の常に先頭に立ってたたかいぬかれた。氏の闘魂と遺志を受けつぎ、たたかいの決意を新たにしたい。

さまざまな抗議行動が展開される

など憤激がまさに全沖縄をおおつ

てている。

交問題であるが、沖縄は国内問題

住民虐殺記述の抹消は、沖縄戦記述削除に対してもたたかいをくりひろげよう。

全国のたたかう労働者人民諸君！

以下の方針のもとたたかいをくりひろげよう。

第一は行革・人勧凍結攻撃を官民の総力を

十一月から年末にかけたたかはきわめて重大である。

総評の全面崩壊の開始という情況のなかで、第一は行革・人勧凍結攻撃を官民の総力を

ごとく「たたかう総評の再生」などと三顧問見主義諸党派は、とりわけ赫旗派にみられる政治に追随し、民同左派の代弁者になりさがっている。結集路線を明確にした主体的な陣型構築と、左派活動家への党的指導の重要性がまったく欠落しているのである。さらに赫旗派は、いま何よりも必要とされる革命党建設に「統一協議会」なる活動家のサークル的結集体を対置するという二重の誤りを犯しているのである。

総評の全面崩壊の開始という情況のなかで、第一は行革・人勧凍結攻撃を官民の総力を

十一月から年末にかけたたかはきわめて重大である。

以上の方針のもとたたかいをくりひろげよう。

第一は行革・人勧凍結攻撃を官民の総力を

あげて粉碎することである。総評は大衆の怒りの声につきあげられて「最高全一日の官民みずから総評指導の無縫括のうえに立った願望の表明以上ではなく、現下の運動を牽引する戦略的展望たりえない。

全国左派労働者の媒介組織として機能すべき位置を占めてきた労働情報はどうか。労働情報系活動家をもふくんで、本年十二月に、「労働戦線の右翼的再編に反対し階級的労働運動をすすめる労組・活動家(集団)連絡会議」を、全民労協に対抗して結成しようといふ呼びかけが発せられている。積極的な試みであることとはまちがいない。だがその实际上の性格は、三顧問政治に大きく逆規定されたものであり、いまだ突破すべき「総評守れ運動」の限界をはらむものである。

このような諸勢力の現状のなかで右翼日和見主義諸党派は、とりわけ赫旗派にみられる政治に追随し、民同左派の代弁者になりさがっている。結集路線を明確にした主体的な陣型構築と、左派活動家への党的指導の重要性がまったく欠落しているのである。さらに赫旗派は、いま何よりも必要とされる革命党建設に「統一協議会」なる活動家のサークル的結集体を対置するという二重の誤りを犯しているのである。

第三は社共との闘争を強化し、階級的労働運動の戦略的陣型構築をひきつづき強力に押しすすめることである。プロレタリアートの政治闘争の創出、先進的活動家組織の建設、合同労組を軸とした未組織労働者の組織化、戦闘的労組の地域共闘建設、職場大衆的実力闘争の復権など緊要な諸課題をめぐって社共派と闘争・競合し、独自陣型を構築・拡大していくことは急務である。とりわけこの事業の担い手労働者活動家を層として輩出するためのたたかはきを強化せねばならない。

以上のたたかはきを革命党建設=武装蜂起=プロレタリア独裁を組織する中央集権非合法党建設の事業ともすびつけ、社共にかわる前衛党建設の前進をかちとろう。

第二は十二・一四全民労協発足阻止に立ちあることである。帝国主義的労戦統一の攻撃は、労働運動の産業報国会化=労働者の戦争動員をもくろむ政治攻撃である。これとの対決なくして日本労働運動・日本階級闘争の構築を急がねばならない。

第二は十二・一四全民労協発足阻止に立ちあることである。帝国主義的労戦統一の攻撃は、労働運動の産業報国会化=労働者の戦争動員をもくろむ政治攻撃である。これとの対決なくして日本労働運動・日本階級闘争の構築を急がねばならない。

第三は社共との闘争を強化し、階級的労働運動の戦略的陣型構築をひきつづき強力に押しすすめることである。プロレタリアートの政治闘争の創出、先進的活動家組織の建設、合同労組を軸とした未組織労働者の組織化、戦闘的労組の地域共闘建設、職場大衆的実力闘争の復権など緊要な諸課題をめぐって社共派と闘争・競合し、独自陣型を構築・拡大していくことは急務である。とりわけこの事業の担い手労働者活動家を層として輩出するためのたたかはきを強化せねばならない。

以上のたたかはきを革命党建設=武装蜂起=プロレタリア独裁を組織する中央集権非合法党建設の事業ともすびつけ、社共にかわる前衛党建設の前進をかちとろう。

10・11 三里塚

反対同盟破壊攻撃に痛打

一万三千名の大結集

基本路線を堅持し、切り崩し策動との闘争を確認した10・11全国総決起集会

たかう共闘団体の発言がつづく。

反対同盟から革マルの謀略デマに
対する弾劾声明、自主耕作のアピ
ールののち、最後に用地内を代表
して発言にたった小川嘉吉氏、島
村良助氏が、「農地死守、軍事空
港粉碎」を力強く訴え、集会を終
了し、反対同盟を先頭に、デモを
うちぬいた。

本集会に先だって四団体（戦旗
派、蜂起派、三里塚闘争に連帯す
る会東京一神奈川連絡会議、全国
委）による前段集会が行なわれた
この集会には、木の根部落の小川
源氏から「数万、数十万の結集で
空港に突入り粉碎しよう」とのあ
いさつが、また白糸部落の笛川英
祐氏から「成田用水攻撃にたいし
て反対同盟は結束を強め、全国の

帝一公团の八三年二期着工に軍事空港完成化にむけた反対同盟組織破壊攻撃の激化に抗し、労農連帶の巨大な隊列を登場させた。

反対同盟が戦闘宣言

降りつづく雨をものもせず全国から結集した労働者学生は、全体会議の始まった正午にはほぼ公園全体をうめつくした。

熱田行動隊長の開会宣言、木の根部落の小川源さんからの主催者代表のあいさつが行なわれた。基調報告にたった北原事務局長は、「成田用水攻撃をはじめ同盟組織破壞攻撃がかけられている。同盟は基本路線をつらぬいてこれを粉砕する。そして反戦反核闘争の先頭でたたかい、パレスチナ人民など世界のたたかう人民と連帯してゆく」との決意をあきらかにした

反対同盟が戦闘宣言

せられた。この集会において発言にたつた共産同（全国委）の同志は次のようにアピールした。

①一七年間の闘争の成果のうえに、反対同盟先進的農民は狭い階層的利害にとどまることなくプロレタリアートとともに進まねばならない。

②農民の苦闘と連帶し、労働者は自らの職場、地域の末端から階級的労働運動の創出をもってこれに呼応しなければならない。

③これらのたたかいを強固な革命党建設事業と結合してたたかいいぬくこと。

諸団体のひきつづくあいさつの後、統一ストーリガンを確認し、全体集会に合流した。

特徴の第三は、三里塚闘争のみならず反戦反核運動、右翼的労戦統一に反対するたたかいの総体を含んだ党派闘争の激化である。それは三里塚闘争の進路をめぐる闘争でありますながら、けつして急進民主主義、右翼日和見主義のごとく小戦術をめぐる自然発生的対立のなかに先進的農民をして閉じ込めではならないものである。

同志友人諸君。三里塚闘争は八三年二期着工を前にして重大な局面に突入している。三里塚闘争は日帝の戦争とファシズム攻撃のかで、三里塚闘争一七年の成果をもって、プロレタリア階級闘争の主体として自らを飛躍させるのか否かを問う時期にさしかかっているのである。ともにたたかいぬこうではないか。

10・11集会の特徴点

この集会において発言にたつた
共産同（全国委）の同志は次のようにアピールした。

①一七年間の闘争の成果のうえに、反対同盟先進的農民は狭い階層的利害にとどまることなくプロレタリアートとともに進まねばならない。

②農民の苦闘と連帶し、労働者は自らの職場、地域の末端から階級的労働運動の創出をもつてこれに呼応しなければならない。

③これらのたたかいを強固な革命党建設事業と結合してたたかいたくこと。

諸団体のひきつづくあいさつの後、統一ストーリガンを確認し、全体会に合流した。

10・11集会の特徴点

十・一一集会の特徴の第一は、同盟分断破壊攻撃にたいする反対

特徴の第三は、三里塚闘争のみならず反戦反核運動、右翼的労戦統一に反対するたたかいの総体を含んだ党派闘争の激化である。それは三里塚闘争の進路をめぐる闘争でありながら、けつして急進民主主義、右翼日和見主義のごとく小戦術をめぐる自然発生的対立のなかに先進的農民をして閉じ込めてはならないものである。

同志友人諸君。三里塚闘争は八年二期着工を前にして重大な局面に突入している。三里塚闘争はもって、プロレタリア階級闘争の主体として自らを飛躍させるのか否かを問う時期にさしかかっているのである。ともにたたかいぬこうではないか。

同盟の団結をしめしたことである敵は用地内外の分断、全国の人民との分断をねらい成田用水をはじめとした攻撃をかけてきてる。条件派育成攻撃をうちやぶるたたかいのなかで、先進的農民は自己の周囲に広範な農民をひきつけ、自己をプロレタリア階級闘争の戦士へと前進させていかねばならぬい。

特徴の第二は、広範な労働者の結集にみられるように、現在の安保・軍拡・臨調を軸にした労働者支配の強化、労働運動の産報化に抗す階級的労働運動と三里塚闘争のかたへ結びつきを詳明こころし

三里塚反対同盟迎え 労働者集会開かる

10・19

京都

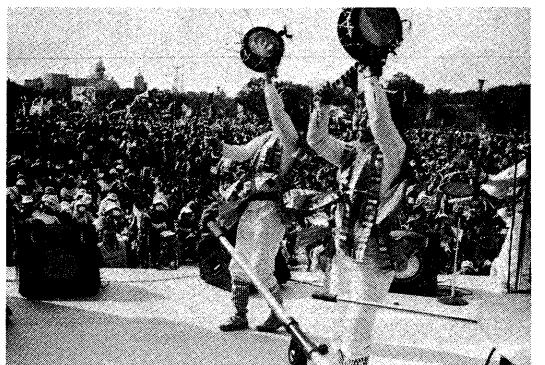
「反戦反核反安保・右翼的労戦」に反対する労働者集会が十一月十九日、京都・タカラブネ本社工場食堂で、三百名をこす労働者の圧倒的結集のもと開催された。

集会はタカラブネ労働組合主催のもとに、本年七月に地域の共闘体として発足した洛南地域労組連絡会議に結集する各労働組合や、高槻市において未組織労働者の組織化に奮闘する高槻地域合同労組、大阪の教育労働者活動家組織、さらには二期工区決戦にむけ陣型をとのえる三里塚芝山連合空港反対同盟の参加をもってかちとられた。

集会に先だつ五時十五分、労働者を終えたタカラブネの労働者や地域の労働者がぞくぞくと結集するなか、反核映画「予言」が上映され、定刻六時に会場を一杯にうめつくした労働者を前に開会が宣言された。

基調報告がおこなわれる。「反

戦反核反安保・右翼的労戦」連帶発言の最初に発壇した三里塚芝山連合空港反対同盟副行動隊長小川清之氏、木内覚氏は三〇本を数える集会スローガンを前に、「労働者は賃金でしばられた奴隸であり、農民も奴隸になつてゐる。



10・24 社共の集票運動への収約許すな

力強い反戦反核のアピールがさまざまな角度から提起された。なかでも、在日元日本軍台灣兵の林氏、在日朝鮮人の朴寿南さんは、日帝の侵略戦争とそれに屈服加担した日本労働者階級の責任を激しく指摘した。元沖縄県労協議長の仲吉良新氏は、日本軍による沖縄の虐殺を弾劾するとともに、いとられた。

集会は、部落解放同盟やたなかう労働組合を中心とした「侵略と差別に反対する広場」（反侵略の広場）をはじめとして、「原子力発電と環境破壊を考える広場」、「軍縮と国際連帯の広場」など十の広場にわかれ、さまざまな催しがおこなわれた。また、わが反帝戦線（全国委員会）は、集会にさきだつて、圧倒的な情宣活動を赤ヘルメットで展開し始めた。

第二会場の「反侵略の広場」は、正午から開始された。このように、集会では、たたかう人民からの

会は、集会にさきだつて、圧倒的な情宣活動を赤ヘルメットで展開し始めた。このように、集会にさきだつて、圧倒的な情宣活動を赤ヘルメットで展開し始めた。

正午から開始された。このように、集会では、たたかう人民からの

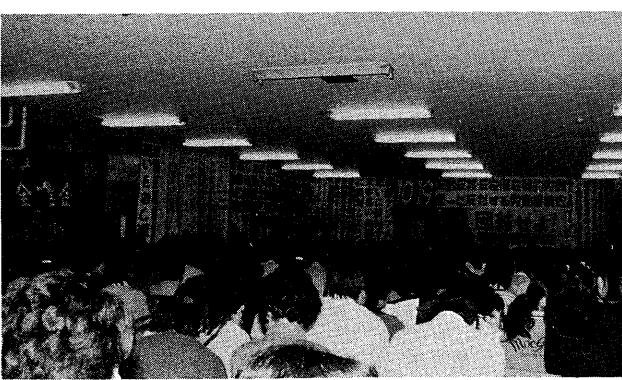
闘争を強く提起した。四万人の大動員を実現した部落解放同盟からは、上杉委員長のアピールがおこなわれた。そして、三里塚反対同盟を代表して発言に立った北原事務局長は、「われわれの魂は、実力決起で侵略と反動とたたかう」と力強く攻撃を打ち砕き、二期決戦に勝利する。この三里塚のたたかいで、日本の反戦・平和の未来を開拓する。このように、十・二四大阪行動をかけてたたかう」と力強い決意を表明をおこなつた。

このように、十・二四大阪行動は、四五万人の大結集をもつて、

「反戦反核反安保・右翼的労戦」統一に反対する労働者集会」が十一月十九日、京都・タカラブネ本社工場食堂で、三百名をこす労働者の圧倒的結集のもと開催された。

集会はタカラブネ労働組合主催のもとに、本年七月に地域の共闘体として発足した洛南地域労組連絡会議に結集する各労働組合や、

核運動のもりあがりのなかで、日米安保の強化など自国の政府の戦争準備との闘争が重要になつてきている。このたたかいは同時に労働運動の産業報国会化を許さない限りはならない。経済的要求をかかげたたかいいと政治的要求をかかげたたかいいを統一したものとしてたたかおう。労働者の未来を守るために、反戦反核反安保のたたかい、さらに多くの労働者に団結を呼びかけてたたかいいぬこう」。基調報告が満場の大きな拍手で確認され



三・二一広島、五・二三東京の巨大火がおこなわれた。なかでも、日帝のひきつづく軍備増強・人質下げによる生活苦にたいする人権の憤激が、この高揚を基礎づけていることをもまた鮮明にしめた。

だがわれわれは断言する。こん

反核大阪行動に45万の結集

三・二一広島、五・二三東京の大大火がおこなわれた。なかでも、日帝のひきつづく軍備増強・人質下げによる生活苦にたいする人権の憤激が、この高揚を基礎づけていることをもまた鮮明にしめた。

このような中で、反戦・反核闘争の高揚を改良政府の要求へとねじまげる策動が進行している。なかでも社会党・総評は、国連請願書下げるためにたたかうと結合することぬきに、春の参院選・地方選への「国民連合政府構想」をかけた集票運動がおこなわれた。そしてたたかいをねじまげんとしている。彼らは、人民のたたかいで、たたかうことにはできない。

だがわれわれは断言する。こん

に前進することを阻止し、日帝の歪曲を許さず、反核大阪行動におきましても、まず社共との断固とした階級的分岐が大衆的にたたかうとする。たたかいいと結合することぬきに、アシア侵略反革命に一指だにふれさせず、改良政府要求へとたたかうとたたかいをねじまげんとしている。彼らは、人民のたたかいで、たたかうことにはできない。

このような中で、反戦・反核闘争の高揚を改良政府の要求へとねじまげる策動が進行している。なかでも社会党・総評は、国連請願書下げるためにたたかうと結合することぬきに、春の参院選・地方選への「国民連合政府構想」をかけた集票運動がおこなわれた。そしてたたかいをねじまげんとしている。彼らは、人民のたたかいで、たたかうことにはできない。

だがわれわれは断言する。こん

熱弁をふるつた。ついで自治労
城南衛管労組など各労組からの連
帶発言、さらにタカラブネ労組各
支部からの決意の表明がなされた。
最後にインターナショナルの大

合唱をもつて集会は大成功のうちに終了した。

十・一九労働者集会の成功の意義は大きい。それはまず、一戦闘

反戦反核反安保闘う 全大阪集会

10・20

10-20

的単組と地域の労組大衆を、自己の狭い経済的利益をこえた政治闘争の場に大衆的に組織しえたことであり、またこれを地域共闘、労農連帶としてかちとったことであり、さらに帝国主義的労戦統一の流れに抗する大衆的たたかいとして成功させたことである。しかしそれはいまだ一拠点、一地域でのたたかいにとどまっていることもまた事実である。全国の戦闘的労働者のたたかいの拠点と拠点をむ

十月二〇日、大阪国労会館において実行委による「反戦反核反安保・帝国主義的労戦統一反対全大阪集会」が開かれ、今秋闘争の全人民的焦点として存在する反戦反核闘争と、十二月全民労協発足阻止にむけたかたい意志一致がかちとられた。

冒頭、実行委を代表して労働者活動者会議から基調が提起され、「現下の反戦反核運動における大衆の政治的登場を正しく発展させること。そのた

主義勢力と自國かいの矛先をむかへ帝国主義のもとへる帝國主義的学ぬき、また労働者会・権力を準備してたたかいぬくこと。これらの外主義者との死

主義勢力と自國かいの矛先をむく帝国主義のもとある帝国主義的学習こと。これら外主義者との死ぬき、また労働会・権力を準備してたたかいいねが確認された。

ために国際的な帝国主義にたたかうと、労働者階級のたたかいを社会抗争として組織化すること」という内宮の決意表明がおこなわれた。映画「予言」の「たたかう」とは、労働者階級のたたかいを社会抗争として組織化することを意味する。

人勧凍結などにたいする官公労働者との团结を官民共闘としてかちとり、この力をもつて階級的労働運動の大きな陣型を形成していくと決意表明した。

集会は、関西大二部反安保共闘会議、高槻地域合同労組、電通労働者政治委員会などの諸発言をうけ、十・二四反核大阪集会への大胆な登場を確認して終わった。

りをはたした。新たな時代の中でこの革命的伝統を復権していくこと、さらに全共闘運動の限界と敗北をこえて、八〇年代学生運動の革命的再建へと前進すること、われわれはこのたたかいにすべての先進的学生諸君の結集を呼びかける。

アートの立場に立つ」（マルクス）時だけである。

この見地を継承したレーニンは、学生一般の「統合」を主張した社会革命党を批判して次のように述べた。「学生はインテリゲンツィアの中でもっとも敏感な部分」であり「だれよりも意識内に、だれよりも決定的で、だれ

世界はいま史上三度目の帝国主義世界戦争の危機に揺れている。日本帝国主義もまた侵略反革命戦争とファシズムへの道をつきすすんでいる。だが他方、南朝鮮において、パレスチナにおいて、エルサルバドルにおいて、ボーランドにおいて民族の解放と社会主義を求めるたたかいの炎が、けつして絶えることなく全世界で燃えあがっている。わが国においても、反戦反核を水路に七〇年安保闘争以来の大衆的高揚がはじまり、帝国主義的労戦統一に反対する労働者は階級的労働運動を創建するたたかいにつこうとしている。

日帝の戦争とアーバンシステム準備の前にひさを屈するのか、プロレタリア社会主義革命によって血ぬられた帝国主義の支配に終止符をうつのか、道はふたつにひとつである。この新たな時代そのものが、学生大衆の起ちあがりを求めている。何ものをも恐れぬ勇気と情熱とをもつて階級闘争の前進のために献身的にたたかう若きプロレタリア戦士たちの登場を求めているのだ。かつて六〇年代後半、全共闘運動は被抑圧人民の利益の擁護者として起

動の敗北以降、長期にわたる混迷期のうちに、ある。その根柢を明確にし、眞に革命的な学生運動を大衆的に再建していく原則的立場がたたかいとられる必要がある。

これが「明るい説明」である。これが「政治組織の固定化」である。これが「命的青年の任務」である。「（革命的青年の任務）」と。レーニンは学生内部の階級的分岐を明確にし、プロレタリアートの階級的利益に立つ政治組織を建設し、そこに広範な学生大衆を結びつけていくことをとおしてのみ、学生運動が階級闘争の中で革命的役割りをはたしていけることをあきらかにしたのである。

以降、レーニンの提起から八〇年が過ぎ、学生はもはやひとにぎりのインテリゲンツィイ

アではなくなつた。レーニンの立場はもはや時代遅れの古くさいものになつてしまつたのだろうか。そうではない。将来のプロレタリートであるこんにちの学生の圧倒的多数を階級闘争に起ちあがらせていくためにこそ、この立場が復権されていかねばならないとわれわれは確信する。

支酉の轉換に求められる
戦後と高度経済成長期をさかいにして大学
の性格はおおきく変ぼうした。戦前の旧制大
学が資本と国家の代表者を育成していく目的
で設立されたのにくらべて、戦後の大学の大
半は「中間管理職」の育成を目的とするもの
になつた。これにともない学生の社会的地位
もまた変化した。戦前の学生はひとにぎりの
にちの学生はその大半が将来のプロレタリア
ートである。

ア階級本隊への支配と密接に結びついている帝国主義としての復活をとげた日帝ブルジョアジーは、朝鮮・アジアへの新植民地支配からのぼる超過利潤をもってプロレタリアートの一部を買収し、プロレタリアート内部に「上層」と「下層」の分断をつくりだし、資本の忠実な手代・労働貴族どもを育成してきた。現下の学生支配はこのブルジョア階級支配の重要な一部となっている。つまり学生を「中間管理職」へと育成していくことは、プロレタリアート（賃金奴隸）の一部を構成しながら、自己の属する階級を裏切り、プロレタリアート内の「下層」や被抑圧人民を抑圧する資本の忠実な奴隸へと学生をしたてあげることを意味する。ブルジョアジーによつて学生は、プロレタリアート内部への支配のくさびとして育成され、動員されようとするのであ

に関する臨時措置法」制定、七〇年「当面する大学教育の課題に対応するための方策」（第二二回中教審答申）から七八年四・二〇文部省通達にいたる過程は、戦後の学生支配の転換を画した。とりわけ七〇年の「方策」はまず学生の規定を「大学の構成員」から「大学機関の利用者」へと変更し、学生が管理と統制の対象であることを明確にしたうえで、学生の政治活動の禁止、学内施設の利用方法・学生団体公認基準・交渉手段の厳格な規定・学生団体のストライキ・授業ボイコットの禁止、处分制度の強化、警察力の積極的導入など一連の学生運動弾圧政策を提示し、学生支配の基本方向をうちだした。

この学生支配の転換は、一切の労働者人民の闘争とその組織を破壊しつくそうとする戦争とファシズムの準備が、学生大衆の前にもその具体的の姿をあらわしたものである。同時

学生の社会的位置の変化と学生支配の転換を背景にして、学生内部の階級的利害対立が顕在化してきている。かつてとはくらべものにならないほどに強化された学生支配や、社会的不正義に対する学生の日々再生産される情激は、ブルジョアジーによって「中間管理職」へと動員されていく道に反対し、プロレタリアートの階級闘争に結集していく萌芽を内包したものである。しかし学生一般は資本による直接的搾取をうけているわけではなく、構成している。したがって学生の自然発生的闘争は、この階級社会の何らかの階級的利害を構成している。

るよう、学生をプロレタリア階級闘争の主体に形成するという観点を欠落させた急進的インテリゲンツィア運動であった。それはもはやこの新しい時代の要請に応ええない。そこに現在の学生運動の全般的沈滯をもたらした主体的根拠が存在しているのである。新たな局面を迎えてたたかいるべき学生運動の革命的再建にむけた立場は、学生を資本の要請によつて「中間管理職」へと動員されにく道と激しくたかわせしめ、学生と学生運動を社会主義革命にむかうプロレタリアートの階級闘争の一翼へと組織していくという見地のうえに、はじめて確立することができるブルジョアジーの階級的利益の側に立つか、正面から学生大衆に選択を提示し、学生内部をまつぶたつに割りきるような学生運動と、その中軸をになう先進的学生のプロレタリア的な政治組織を建設していかねばならないのである。

な奴隸となるよう強制されている。この支配に屈するのか、それとも学生の時代から将来のプロレタリアートの一員として階級闘争に決起しつづけるのか、こんにちの学生の前には客観的にはこの二つの道しか存在していな
い。

戦後学生運動の総括視点

運動の原則的立場を明らかにしてきた。そのことは、戦後学生運動のどのような前進の課題なのか。

戦後学生運動の最初の時期を特徴づけたのは、六〇年安保闘争時の全学連に代表される急進的インテリゲンツィア運動の高揚であつた。それを支えた基盤は、第一にかゝっての学生の社会的位置を反映したところの、学生は国民の中から選ばれたものであり、したがつて国家・社会の変革の先頭に立つべきであるという意識の広範な存在であつた。そして第二には、六〇年安保闘争と安保改訂阻止国民会議に示された社共一総評を中心とする組合主義的・市民主義的政治闘争とその政治的統一戦線の存在であつた。全学連はその一翼を構成しつつ、左からの戦術的牽引をなそうとしたのであつた。

層全体として階級闘争の中で革命的役割をはたすことができる」とする急進的インテリゲンツィア運動の理論であり、「全学連＝労働者階級の同盟軍」「先駆性論」へと体系化された。それは六全協以降の日共が、学生運動を教育的・文化的要求にとじこめたことに対する最初の分岐を形成したものであった。しかしそれは、非階級的な急進民主主義的論理であり、学生層内部の階級的分岐を組織し、階級闘争の主体に形成していくくという見地を欠落させた限界ある理論であった。



80年5月15日、ソウル駅前で、全斗結
煥打倒をかけた韓国的学生

本年4月25日、東
京での全国学生共
同行動



ゲンツィア運動の最後のもつとも尖鋭な高揚を基礎にしつつ、「層としての学生運動」の限界を突破して、プロレタリア階級闘争の一翼に突出せんとしたたかいであった。全共闘は、全国主要大学をバリケードでうめつくし、反戦労働者とともに反帝統一戦線を形成し、七〇年安保闘争を先頭に立ってたたかいねいた。その到達した内容は次のようにあった。①大学Ⅱ「労働力商品再生産工場」と規定し、この「帝国主義的統治機構」の解体を要求し、②大学を全人民の政治闘争と反帝統一戦線の根拠地とすることを要求し、③きわめて自然成長的なものであつたが学生内の階級的分歧（秩序派・民青・全共闘）を形成した。そして④学生自治会とは相対的に別個に形成された全共闘を自治会によってはにはないえない革命的要求をになうものと規定した。

この六九年未にいたる英雄的闘争は、六〇年代後半階級闘争が権力の壁の前にいつたんの敗北を喫すると同時に、いわゆる「バリケード内の腐敗」ともいいうべき小ブル自由主義への解体をもたらした。

この敗北の総括は、まず反帝政府打倒をかかげるまでに前進した六〇年代後半階級闘争が、樹立すべき権力とその準備をもちえていなかつたという前衛党建設の未成熟に求められる。

それでは、学生運動という個別の側面から見た時、全共闘運動はどのように総括されねばならないのか、その発展的に継承すべきものはなにか。それは第一に、七〇年安保闘争にいたる政治闘争の先頭に立ち、全人民の利益の擁護者としての役割をはたそうとしたことにある。そして第二には、六〇年安保全連のように「学生層全体が革命的役割をはたせる」とは考えず、学生層内部における初步

大学Ⅱ「労働力商品再生産工場」と規定し、この「帝国主義的統治機構」の解体を要求し、②大学を全人民の政治闘争と反帝統一戦線の根拠地とすることを要求し、③きわめて自然成長的なものであつたが学生内の階級的分歧（秩序派・民青・全共闘）を形成した。そして④学生自治会とは相対的に別個に形成された全共闘を自治会によってはにはないえない革命的要求をになうものと規定した。

この六九年未にいたる英雄的闘争は、六〇年代後半階級闘争が権力の壁の前にいつたんの敗北を喫すると同時に、いわゆる「バリケード内の腐敗」ともいいうべき小ブル自由主義への解体をもたらした。

この敗北の総括は、まず反帝政府打倒をかかげるまでに前進した六〇年代後半階級闘争が、樹立すべき権力とその準備をもちえていなかつたという前衛党建設の未成熟に求められる。

それでは、学生運動という個別の側面から見た時、全共闘運動はどのように総括されねばならないのか、その発展的に継承すべきものはなにか。それは第一に、七〇年安保闘争にいたる政治闘争の先頭に立ち、全人民の利益の擁護者としての役割をはたそうとしたことにある。そして第二には、六〇年安保全連のように「学生層全体が革命的役割をはたせる」とは考えず、学生層内部における初步

全共闘運動にいたる戦後学生運動を特徴づけてきたのは、急進的インテリゲンツィア運動であった。しかし八〇年代の現在、広範な急進的インテリゲンツィア運動を成立させた民青との階級的分歧は不徹底なものに終わつた。

全共闘運動にいたる戦後学生運動を特徴づけてきたのは、急進的インテリゲンツィア運動であった。しかし八〇年代の現在、広範な急進的インテリゲンツィア運動を成立させた民青との階級的分歧は不徹底なものに終わつた。

3 対日共党派闘争の重要性

革命的学生運動の再建は、右翼ファシズム学生運動、日共学生運動との正面戦にたちあがることなしには不可能である。

八〇年代に入つて、全国的にファシズム学生運動の台頭が始まっている。八〇年十一月、「日大文理を一点突破し、首都圏全大学を制圧する」と宣言した反憲学連が、日大文理武装制圧にふみだしたことがその代表的動きであつた。

それは、全社会的なファシズム運動台頭の反映であるとともに、こんにちの学生と学生運動の現状に深く根ざしている。八〇年代に入つて、大学を卒業しても現業労働に従事しなければならないなど、卒業後の社会的地位に対する学生の不満が急速に高まつている。させられつつ資本の要請する道を歩んだとしても、こんにちの学生にはもはやプロレタリアート内での特權的地位が約束されているわけではない。ファシズム学生運動は、このプロレタリアートとしての将来への絶望と孤立感・疎外感につけ入り、他帝国主義と被抑圧民族への憎悪へとそれを転化し、学生を侵略反革命戦争とファシズムに組織せんとするものである。

このような彼らの台頭を可能としているのは、圧倒的多数の学生がプロレタリア階級意識の解体状況に放置されていることにある。いかえれば、急進的インテリゲンツィア運動の歴史的終えん以降正面からプロレタリア階級闘争への起ちあがりをよびかける革命的学生運動の建設に敗北してきたことの結果にほかならない。われわれは、この現状を突破し、学生をブルジョアジーの政治的 requirement とファシズムにゆだねるのか、プロレタリアートの側に奪い返すのかをかけた正面からの

的な階級的分歧を形成したことであり、第三にはそれを自治会・サークルとは別個の政治組織である全共闘の組織化に展望しようとしたことである。

同時に、抜本的に総括されねばならないのは、このようなたたかいをなにに依拠して組織しようとしたのかである。全共闘運動は、大学があたかも「労働力商品再生産工場」ではなかつた。インテリゲンツィアの立場の側からのこれへの反発に直接的に依拠し、それが帝国主義国家権力の打倒へと戦術的に尖銳化させたものであつた。それゆえ、労働運動との結合は戦術的結合にとどまり、秩序派・民青との階級的分歧は不徹底なものに終わつた。

学生運動を学内改良要求にとじこめ、また、学生が明確なプロレタリア的世界観と階級的立場を獲得していくこと、そのため前衛党と結合していくことに敵対する小ブル自由主義潮流である。同時にその対極には、これらを批判する急進的運動が形成されづけてきた。この部分を代表する現在的闘争として、日大文理（銀ヘル）の闘争がある。彼らは右翼ファシズム学生運動との死力を尽くした闘争の中から、その攻防を日帝の戦争とファシズム準備との闘争へと押しあげ、全国的結集をよびかけてきた。われわれは、右翼のノンセクト主義の影響を一掃するとともに、戦闘的にたたかうすべての学生諸君に対しても、急進的インテリゲンツィア運動の枠を脱皮しとおもにたたかうことをよびかけるものである。

政治攻防にふみださねばならないのである。その時、日共学生運動を打倒し、その影響を一掃していくことが決定的に重要である。日共は、学生を「将来比較的知的な仕事に従事しインテリゲンツィアを構成する半インテリゲンツィア」ととらえ、こんにちの学生が直面する矛盾は、「教育・研究の自主的発展が米日支配層の利益、生産の資本主義的形態によって従属させられ、阻害されている」ことにあるとする。そこから学生の自治活動とは、「教育・研究の自主的発展」のために民主的改良要求を組織することであり、矛盾の全面的解決のために政権交代―民主連合政府樹立の一翼をになうべきとする。この日共の主張は、第一に戦争とファシズムへの国民運動に規定づけられた八〇年代学生支配を米日支配層の恣意的な反動政策に解消し、その階級的政治的性格をインペイし学生に屈服を強いるものである。そして第二に、学生をプロレタリアートとして形成し階級闘争にたちあがらせるのではなく、「教育と研究の自主的発展」なる改良要求にとじこめる反階級闘争の立場である。また第三に、日本資本主義の危機の救済をかけた民主連合政府に学生を「収約せんとする反社会主義の立場である。右翼ファンズム学生運動の背後にはブルジョアジーの階級的利益が存在しており、日共学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。

再建のための四つの任務

八〇年代学生運動が立脚する階級闘争の状況はかつての時代とはおおきく変化した。かつて社会主義の「希望の星」であった民族解放―社会主義勢力は、中国ベトナム戦争に示される対立を生み出し、結集すべき社会主義の「分裂」という局面を迎えた。他方、資本主義の世界的危機が深まり、各国帝国主義はそこからの脱出を求めて侵略反革命戦争とファシズムへと突き進んでいる。だが全世界でプロレタリアートの社会主義を求めるたちは絶えることはない。その中で、プロレタリア階級の第一次的團結体である労働組合を広範に組織していくこと、同時に先進的プロレタリアートを組合運動の枠をこえたより広い革命的任務へと組織していくこと、この階級的労働運動の創建が、社会主義革命にむけた階級闘争の成否をかけた攻防となつていい。学生運動を階級闘争の一翼に組織するることは、決してばく然とした理念ではない。そ

れが米日支配層の利益、生産の資本主義的形態によって従属させられ、阻害されている」ことにあるとする。そこから学生の自治活動とは、「教育・研究の自主的発展」のために民主的改良要求を組織することであり、矛盾の全面的解決のために政権交代―民主連合政府樹立の一翼をになうべきとする。この日共の主張は、第一に戦争とファシズムへの国民運動に規定づけられた八〇年代学生支配を米日支配層の恣意的な反動政策に解消し、その階級的政治的性格をインペイし学生に屈服を強いるものである。そして第二に、学生をプロレタリアートとして形成し階級闘争にたちあがらせるのではなく、「教育と研究の自主的発展」なる改良要求にとじこめる反階級闘争の立場である。また第三に、日本資本主義の危機の救済をかけた民主連合政府に学生を「収約せんとする反社会主義の立場である。右翼ファンズム学生運動の背後にはブルジョアジーの階級的利益が存在しており、日共学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。かつて全共闘運動は、これらの部分と狭い範囲ではあつたが階級的分岐を形成した。いまわれわれは、革命的学生運動の再建をかけて、彼らとの正面からの闘争を組織し、学生運動の背後には「中産階級化」されたプロレタリアート内の「上層」の利益が存在している。

4

第二に、階級的労働運動との結合をたたかいつついくことである。ブルジョアジーと労働貴族一体となつた帝国主義的労戦統一は、今冬一二月全民労協結成と臨調一行革を通じた官公労解体攻撃をもつて新たな段階にふみだそうとしている。それは戦前の産業報国会と同様に労働組合を破壊し去り、労働運動そのものを日帝の戦争とファシズム準備の社会的支柱に組織せんとするものである。そして、総評民同がこれへの合流にふみ出したことによって、総評労働運動は最後的解体にいたらうとしている。いまだ敵の攻撃によつてもたト階級本隊の巨大な流動が始まり、帝国主義的労戦統一に反対する戦闘的労働者のたなかいが噴出している。この流動を戦争とファシズム準備と対決し、総評労働運動の限界と決別した階級的労働運動の建設へと前進させられるか否かが正面から問われている。将来のプロレタリアートである学生にとって階級的労働運動との結合は決定的に重要である。「労働運動との結合」を口にする日和見主義が多い。しかし、それは学生をプロレタリアートとして起ちあがらせるという見地を欠落させ、かつ労働運動との結合を組合運動への支援一般へと転落させるものである。われわれは、階級闘争の主体への変革をかけて、自己の結合すべき階級の命運をかけて階級的労働運動との結合をよびかける。そのため、(1)

第三に、プロレタリア的世界觀を獲得してかいは、いまだ社共一総評の小ブル平和主義のくびきに固くなざとめられている。彼らは、反戦反核運動を、米ソの核戦争から自己の生命と生活を守るためにたたかうが、自己帝国主義＝日帝の侵略反革命戦争とは決してたかいえないという限界の中に封じこめようとしている。だが、この世界から帝国主義戦争を根絶していくことは、帝国主義を全世界的に打倒していくことによってのみ可能である。われわれは、朝鮮、アジア人民の反帝民族解放闘争との連帶、日帝の戦争とファシズム準備との闘争、帝国主義的労戦統一との闘争を中心としたプロレタリアートの政治要求のもとに結集し、プロレタリア階級を中心とする共同行動、政治行動の組織化にふみださねばならない。そして、広範な学生大衆を社共一総評の小ブル平和主義の影響から解き放ち、プロレタリア階級を中心とする全人類的政治闘争建設へと結集させていかねばならない。

第四に、新たな学生運動の中軸をになう前衛党と結合した先進的學生のプロレタリア的政黨組織の建設である。みずから先頭に立つて階級闘争の一翼をになうとともに、全人民的政治闘争の建設と階級的労働運動との結合を学生大衆によりかけつづけていくこと。個別の学園の枠をこえ、全国的な学生運動の再建のために奮闘していくこと。このような任務をになうなかから、若きプロレタリア階級組織を建設していくこと。この組織は、こんにちの国家権力、右翼ファシスト、日共の攻撃にうちかつたために、プロレタリア社会主義革命を準備していくこと。歴史的任务のためには合法領域での活動能力にくわえ、非合法活動能力、軍事能力をあわせもつ組織としてきたえあげられねばならない。

全国のたたかう学生諸君！

われわれはいま戦後日本学生運動の歴史的限界である急進的インテリゲンツィア運動と最終的に袂別し、プロレタリア階級解放の大道と結合した革命的學生運動創建の長征に出発する。そして必ずや社会主義革命にむかうプロレタリアートの隊伍の一翼に、革命的學生運動の真紅の旗をうちたてるであろう。起ちあがれ、プロレタリアートの若き同志である学生諸君！

あらゆる困難をのりこえ、輝やかしい未来を得るため、ともに前進せん！